



建設工事・解体工事を行う作業員の皆様へ！

溶接・溶断作業中の 火災が多発しています！！



これらは、作業前に周囲の可燃物をあらかじめ除去することや、十分散水をするなど、ほんの少し気を付けていれば防げた火災がほとんどです。



火災事例 1

アセチレンガスを用いて鉄製の屋外階段を溶断していた際、溶断し高温となった部材が壁体内に落下、壁内の木ずり等の木製部材に着火し、解体中の共同住宅が全焼した。



火災事例 2

床のH鋼材をLPガスにて溶断作業を行っていた際、下階天井裏の断熱材に着火、火災に至った。



火災事例 3

屋外で鉄製の手摺をアセチレンガスにて溶断作業を行っていた際、高温のスパッタが隣接する敷地内のゴミ上に落下したもので、着火したゴミからさらに当該敷地内の建物に延焼し、3棟が全焼した。

また、平成30年7月に東京都多摩市の新築工事中の事務所ビルで、溶断作業の火花が周囲の断熱材等に着火した火災では、**5人が死亡し42人が負傷**しています。

溶断や溶接作業を行う際は、裏面の注意事項について

十分確認の上、出火防止に努めてください。

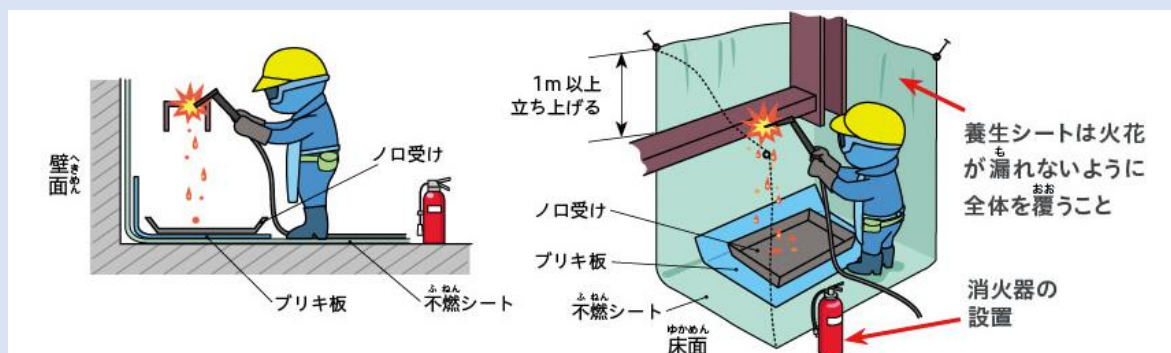


○作業前の注意事項

作業前、作業後に下記項目について、チェックしてください。

- 作業前に作業員全員で作業内容や防火のための注意点について確認をしましたか？
- 溶接、溶断作業場所の周囲を整理整頓し、可燃物を除去しましたか？
- スパッタシート（不燃シート）を、適切に使用していますか？
- 溶接・溶断箇所のみでなく、壁内部や天井裏の断熱材等の可燃物はありませんか？また、隣戸や下階の可燃物は確認しましたか？
- 消火器、水バケツ、水道ホースは準備していますか？
- 作業終了後、臭気や発煙は有りませんか？

上記以外にも喫煙は必ず決められた場所で行い、吸殻は水につけて確実に消すなど、出火防止に努めてください！



異変を感じたら迷わず 119番通報を！

知ってますか？溶接・溶断豆知識



Q1 溶接や溶断の火花はどれくらい飛ぶの？

A. 切断用酸素の圧力や作業場所の高さにもよりますが、火花の飛散距離は、**5m～10m**にも及びます！

Q2 火花の温度はどれくらい？

A. **1,200度～1,700度**に達します！飛散した火花が可燃物上に落下し、くすぶり続け作業終了後の無人の作業場内で出火した事例もあります。

適切な作業管理で出火防止にご協力をお願いします！